

冬
号

Dec. 2017 / No.4
News Letter



架け橋

住み慣れた地域でいのちをつなぐ

発行元

公益社団法人京都保健会
京都協立病院

あやべ協立診療所
ふくちやま協立診療所
まいづる協立診療所
たんご協立診療所

京都北部から総合診療専門医を！

—京都協立病院を基幹病院とする専門研修プログラムが承認—

京都協立病院 副院長／日本内科学会認定総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会指導医／日本リハビリテーション医学会専門医／専門研修プログラム統括責任者

玉木 千里



2017年10月に、日本専門医機構の二次審査を経て、京都協立病院を基幹病院とする「京都北部総合診療専門研修プログラム」が承認されました。

この新専門研修プログラムには、京都北部に位置する市立福知山市民病院、舞鶴共済病院、ふくちやま協立診療所、たんご協立診療所の4施設が連携施設として登録されています。今回新専門医制度の19番目の基本領域として新たに総合診療科が設置された最も端的な理由は、多くの疾病をもち、多剤を処方されることが多い高齢者が増加している日本において、このような高齢者を効率よく総合的に診る医師がどうしても必要になってきたという時代的社会的要請に応えるためです。私たちが、北部完結のプログラムを持つことにこだわったのは、前述のような高齢者に対して、適切な医療を提供できる医師を養成するためには、この北部の地域が非常に良いフィールドになるという確信を持っていたからです。北部地域は都心と比較し、医療資源が少ないため、医師一人ひとりに課せられる医療の範疇が非常に幅広いという特徴があります。一方で全てのことが医師で決められるわけではないので、多職種や地域のスタッフとの連携が非常に大切になってきます。多くの医療問題に対処し、地域の医療資源に

有機的につなげることが、総合診療医に求められる能力ですから、当然北部地域のフィールドは都心部より総合診療医が成長する上で恵まれた環境にあるということになります。実際にプログラムを整備する上で、いくつかの障壁はありましたが、この北部の地域で優秀な総合診療医を育てたいという強い思いがあればこそ乗り越えることができました。ここに、北部の総合診療医養成プログラムが機構により認定されたことは、私たちの非常なる喜びです。

当院は、今の新制度設立に先立つこと10年前、2007年に旧日本家庭医療学会に認定され、現在も日本プライマリ・ケア連合学会により認定されている「京都家庭医療学センター家庭医療後期研修プログラム（基幹施設は上京診療所）」の連携施設として専攻医受入の実績があります。当院の専攻医研修では、一人の患者さんを継続的に診療し、病だけでなく家族や社会的背景をも含めて全人的に理解すること、またチーム医療を大切に、リーダーシップやプロフェッショナルリズム精神を育むことを目標として研修指導を行い、地域に貢献できる総合診療医を多く輩出してきました。

これまでに得た知識と経験を活かし、これからは基幹病院としてより多くの優秀な専攻医を養成して参り

たいと考えている次第です。最後に、「京都北部総合診療専門研修プログラム」が承認されるにあたって、連携施設の先生方ならびに多くの皆様のご協力をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思

います。これからも京都協立病院は専攻医とともに患者中心の医療、地域に貢献できる医療が提供できるよう精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



KCFM家庭医療学セミナー ふくちやま 報告

京都家庭医療学センター (KCFM)
ふくちやま協立診療所

所長 寺本 敬一



今年は、初めて市民交流プラザで開催して、合計50名の参加（医師、看護師、薬剤師、ケアマネ、社会福祉士、介護職など多職種）をしていただきました。

まず、「在宅ケアに役立つ家庭医療学 家族志向のプライマリ・ケア」を寺本が講演しました。家族志向のプライマリ・ケアでは、患者さんの一番身近な背景（コンテキスト）である家族を常に念頭におきながら診療します。BATHE法やPositive BATHE法を紹介し、家族のストレスフルな出来事により効果的、満足度を高める対応、視点を変えるために有用なことを紹介しました。

桜井 隆先生は、尼崎市で活躍されている家庭医、在宅医療の第一人者です。講演タイトルは「大往生なんか無理なんしつとを？」雑談から参加者の心をしっかりと“つかみ”、桜井先生の実践されている在宅診療の心得（在宅ケア開始4点セット（①退院前cf参加②その場で携帯電話登録③退院日の往診④退院翌日の電話フォロー）、cfはできるだけ在宅で行う）、台風の天

気予報、飛行機などの例え話を使いながら、わかりやすく、関西風の軽妙なお講演をしていただきました。また、在宅患者さんの写真を撮る重要性、お一人様の看取りでの注意点なども教えていただきました。

グループワークでは、「認知障害のない末期腫瘍のある高齢者の最終段階の在宅診療、ケアについて、ディスカッションしていただき、本人への病状説明、意思決定、予後予測をしっかりとすること、本人、介護者の不安への対応、介護者負担を十分に軽減する策、デスクアカンファレンス開催」などの意見がでました。それぞれの学びとともに、地域の顔の見える連携構築にも多少は貢献できたと思われます。できれば、来年もより良い企画、運営で開催して、よりよく学び、顔の見える関係構築で、地域の医療、介護、福祉の質を向上させ、最期までより安心して住みやすい街づくりに貢献したいと思います。

グループワーク



桜井 隆先生（さくらいクリニック）真打ち登場

初期研修医を迎えて

当院では、例年初期研修医を受け入れていきます。基本的には2年目の地域医療研修で約1か月の受入れですが、なかには選択研修と組み合わせてそれ以上の期間を研修される研修医もいます。特に、今年度は希望者が多く年間を通して5名の研修医が来てくれることになっており、12月の現時点では、すでに3名が研修を終え、1名が研修中という状況です。

当院の初期研修では研修の終盤に、2つのイベントが行われます。まず、1つ目が研修プログラムにも組込まれている初期研修医委員会です。この委員会では、初期研修を成功させるために病院内の各部署が日ごろの研修医の活動を一定基準に従い客観的に評価します。また、評価するだけでなく更なる質の高い研修を行えるようフィードバックをする場にもしています。初期研修医は、各部署からの評価を受けて、時には安堵し、時には振返りを行い日々成長してゆきます。また、これとは逆に、病院が初期研修医からさまざまな意見をもらい、初期研修協力病院としての質の向上に



研修医とスタッフ

研修医と門院長

も役立っています。

2つ目は、全職員を対象とした多職種参加型「研修医症例検討会」です。こ



多職種参加型「研修医症例検討会」

れは、初期研修医が当院で経験した症例を纏め、発表・検討する場です。多職種参加型とネーミングされていることから分かるように、単に研修医が発表・検討するだけでなく、その症例に関わった部署も一緒になって取組み発表し検討をおこないます。今年度はすでに、「認知症患者の意思決定について」、「脳梗塞を発症した嚥下患者におけるコミュニケーションとリハビリ」、「痛風発作？により歩行困難となった一例」という題目で3人が発表を終えており、どの発表も議論の深まる素晴らしいものでした。

今回は初期研修に関わる2つのイベントを通して、当院における研修の一端をご紹介しました。研修医の皆さんは、これらのイベントだけでなく、日々の経験と思索、そして指導医・上級医との関わりからも一生懸命に知識を吸収されているように思えます。そのような、日々努力されている研修医の皆さんにエールを送ると同時に、職員一同本当に良い刺激を与えていただいております。感謝もしたいと思います。

ENJOY!

福知山マラソン。 まさかの28kmでリタイア

京都協立病院 院長 門 祐輔

福知山マラソン。まさかの28kmでリタイア。

ハーフは昨年と同じくらいの1時間40分。

24kmくらいから足が動かなくなってきた、こむらねがえりが繰り返し起こりかける。給水しても塩を舐めてもおさまらず。

今の自分にはオーバーペースだったのかな？

応援に来てくれた病院職員と、うっすら見える虹をバックに「記念写真」。

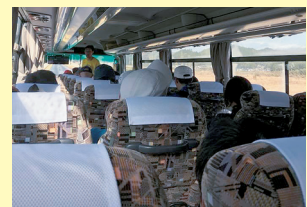
昨年3時間21分のK医師は、今年は3時間

15分とさらに進化していた！おめでとう！

グッタリした人が多い「リタイアバス」は、ようやく動き出した。

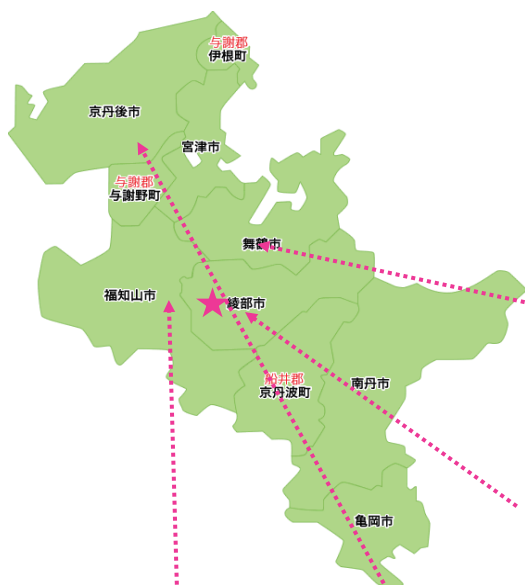
こんな日もある。体のダメージが少ない分、明日はしっかり仕事をしろということかな？

まあ、頑張ろう！



医療・介護のネットワーク

北部事業所一覧



京都協立病院



2015年リニューアル

- ・あやべ協立診療所
- ・在宅ケアステーションげんき
- ・複合型きょうりつ併設



- ・まいづる協立診療所
- ・ふれあいステーションゆきわ



- ・ふくちやま協立診療所
- ・ほっとステーションきぼう



- ・たんご協立診療所
- ・訪問看護ステーションゆたかの



● 医師募集

常勤医師 内科、外科、整形外科、診療所所長

非常勤医師 当直、日直、外来等 募集しています。

問い合わせ先・詳細は

京都協立病院(事務局 吉田)

TEL(0773)-42-0440、 E-mail: info@kyoto-kyoritsu.org

ホームページもご覧ください。

<http://www.kyoto-kyoritsu.org/>



公益社団法人京都保健会 京都協立病院

〒623-0045

京都府綾部市高津町三反田1番地

TEL 0773-42-0440